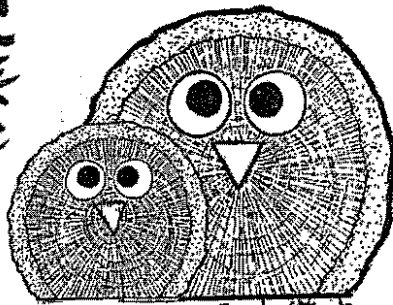


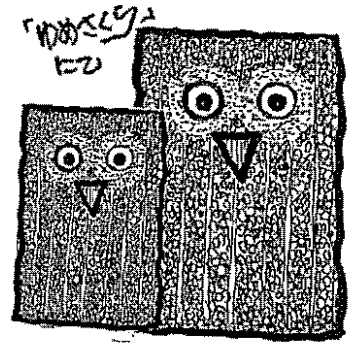
家族で
おいしい夕食を
食べていますか



中山隆尾らるる

出掛ければ「宝」!

本を
読んだら
出掛けよう!



本：里山産業論

農文協の読者のつどい「田園回帰 1%戦略～地元の人・仕事・暮らしを取り戻す～」の講演会に仲間3人と出掛けました。

今回の講師は、農文協から出された「田園回帰 1%戦略」を書かれた藤山浩さん。その本を読み、私たちが「里山の仕事づくりは、企業誘致や市場の下請けはご法度。地消地産・志産志消が大切」と言っていることに繋がっていると考え、即参加を決めました。

藤山さんは、書かれたり、しゃべられている通り、里山暮らしを楽しみ、「一番大切なこと＝家族でおいしい夕食を食べること」をものさしに、「東京」暮らしは「異常」と批判し、「人口の1%を毎年獲得し、消費の1%を地域産のものにすれば限界集落も消滅都市も守れる」と、きっちりとした数字を並べられました。

「1%：少しづつ少しづつ」がいい!

「小さな営みをつないで（合わせて）手にする営みがいい」とも言われました。それは、私たちが求めている自然と人間が「響存」する里山（田舎）暮らしの中にある。

「やっていることに間違いはない」と確信しました。私は、新しいことを学ぶことも大好きですが、「私のやっていることは間違いがない」と思わせてくれる学びが大好きなのです。その上、素敵な出逢いも一杯あり、「出掛けること」の素晴らしさを、また味わいました。出掛けていますか。

「里山資本主義」が40万部のベストセラーになって以降、私の「里山を食いものにしよう」を始め、「里山」が付いた本が沢山出版されました。

そして、最新の角川新書「里山産業論（金丸弘美著）」。「これがいい! 地域づくりや日本の課題の底に、食や環境があり、「地方創生」等で取り組まれている行政等の取り組みに問題があり、「食の戦略が必要」と書かれ、それを乗り越えるための提言や実践がレポートされています。

その実践の中に、徳野先生が主宰される「トクノスクール」で知った「ぶどうの樹」がレポートされています。知って以降、「食べ処」をやる人だけでなく、まちづくりをやる人、教育や福祉に関わる人も、是非視察（1泊2日で4食食べるだけでもいい。その場合の留意事項：消化剤持参のこと）して欲しいと言っている場所です。

そこでは、料理のご馳走だけでなく、笑顔のご馳走、花のご馳走、ことばのご馳走、役立ち感のご馳走が満喫出来ます。そして、そこは周りの人から「更生施設」とも言われています。そこに、志も人柄もデッカイ小役丸秀一社長がいらっやいます。その小役丸さんを、今年多気町（三重県）で開く逆手塾のゲストに迎えます! 押しかけゲストで藻谷浩介さんもこられます。二人の出逢いにワクワク! 私の趣味はいい人たちの出逢いづくり。